

経済倶楽部便り

◆東京◆ 日本株の変化が際立ってきました。経済動向を観測するルールの一つとして、株高債券安、あるいは株安債券高の同時進行を若い時分に先輩から教えられました。ところが、この数カ月はどうでしょう。か実態的に企業業績、ベースマネーともさほどの変化をしていないにもかかわらず、円安株高、円高株安の市況連動のみが先行しているように見えます。一方で国債価格がほぼ「中立」的な動きなのは不気味です。「失われた20年」を経て、これが「ニューノーマル」になつていくのかどうか、検討したいところです。

2月の講演会は、熊谷亮丸氏（大和総研チーフエコノミスト）、塩田潮氏（ノンフィクション作家、評論家）、金慶珠氏（東海大学准教授）、今井澁氏（国際エコノミスト）をお招きしました。（塚田 紀史）

◆中部◆ 年明けの中部地区経済4団体の賀詞交換会に最近では東京中心のトヨタ自動車の豊田章男社長が出席して話題を呼びました。一昨年3月の東日本大震災以降、国内で300万台生産しているトヨタは東北や九州での生産を合計で150万台まで拡大させる方針。そのため、雇用流出への懸念が地元名古屋圏でも高まつており、その辺りを意識しての地元財界への顔見せとなつたとも言われます。愛知県は昨年までで36年間、工業出荷額が全国1位。とりわけ部品産業も含めて自動車産業の影響は甚大です。逆に言えば、自動車産業のマイナスをカバーする産業に乏しいというのが弱点ですが、いずれにしても、そのトヨタ自動車が今期は5期ぶりに営業利益1兆円超えの見込みで、地元名古屋圏景気にも明るさが増してきそうです。

2月の定例講演会は長谷川幸洋・東京新聞論説副主幹、吉本佳生・関西大学大学院特任教授、中西輝政・京都大学名誉教授を予定しています。（日暮良一）